

平成 30 年 6 月 6 日 訂正

アパコネット株式会社 制作

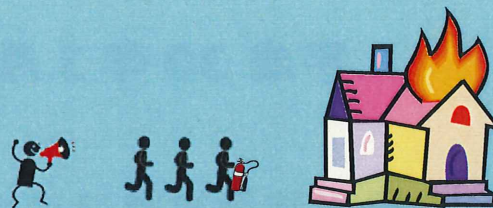
垂水地域おたすけガイド

平成 30 年 3 月 作成

垂水防災福祉コミュニティ

地域おたすけガイドについて

- (1) 地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。災害時は、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- (2) 皆さんの災害時の活動をより効果的にするために、これまでに各地域で取り組まれた優良事例を参考に、防災福祉コミュニティのメンバーで協議して、この地域おたすけガイドを作成しました。
- (3) しかし、この地域おたすけガイドに記載している内容は完全ではありません。
- (4) 今後、防コミでの防災訓練等を通して繰り返し検証し、地域に適したガイドにするため、どんどん見直していきましょう。



1 防コミ運営本部の設置基準

- ・震度5強以上の場合。または地震による被害が拡大する恐れがある場合。
- ・大津波警報又は津波警報が発表された場合。

2 活動方針

阪神・淡路の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。一方、自分の命を守ることも重要です。周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょう!!

3 役員参集場所等一覧

防コミ運営本部	垂水小学校				
防災資機材庫	垂水小学校運動場北西				
飲料水・給水施設	垂水小学校（いつでもじゃぐち）				
食料備蓄	垂水小学校		垂水体育館		
緊急避難場所 及び避難所 (屋内)	名称	※災害ごとの注意事項			備考
		土砂	洪水	津波	
	垂水小学校	○	○	○	
	垂水年金会館	○	○	○※	
垂水体育館	○	○	○	※垂水年金会館は緊急避難場所及び避難所に指定されているが、津波避難時はJRより北側へ避難する。	
緊急避難場所 (屋外)	名称	※災害ごとの注意事項			備考
		地震	津波	大火	
	平磯緑地	○	×	○	
芝生広場	○	×	○	※津波のおそれがある時は、念のため海岸から離れること。	
一時避難場所	東垂水展望公園				
防災行政無線保有者	垂水地域福祉センター 囲基室南側	防コミ委員長		防災部長	
地域内の危険箇所	地図に記載				

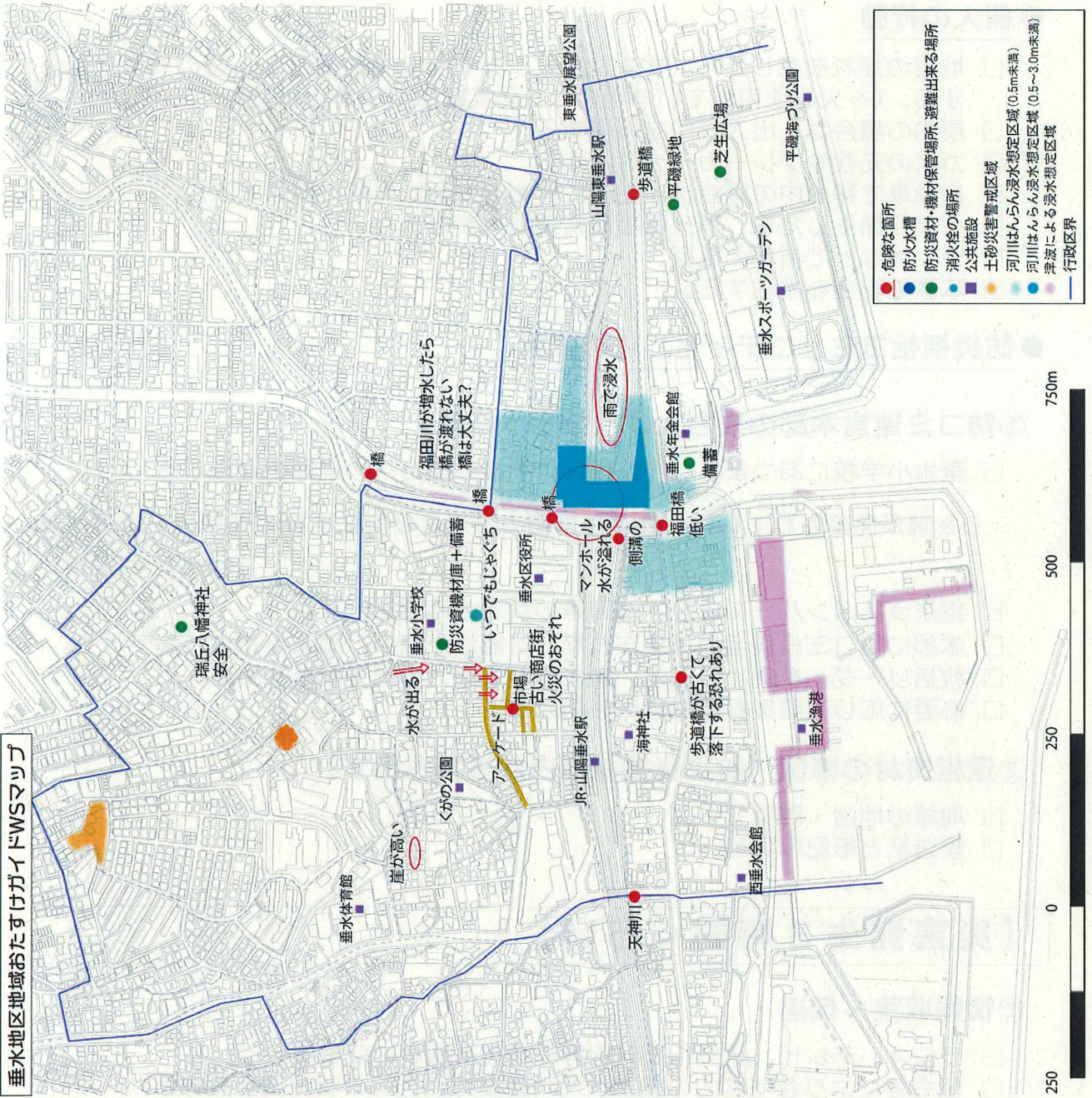
「災害ごとの注意事項の見方」

- ・避難所の欄に○のある施設は避難所として利用が可能です。
- ・×：警戒区域などの中に入るため、原則、利用できない施設。

用途	品名	個数
防災資機材	小型動力消防ポンプ	1
	40mm 消防用ホース	5
	65mm 消防用ホース	2
	訓練用水消火器	10
	布バケツ	17
	自立式簡易水槽	1
	スコップ	9
	簡易ジャッキ	2
	ツルハシ	4
	折りたたみ担架	2
	救助用ロープ	1
	ヘルメット	12
	腕章	24
	トランジスタメガホン	4
	携帯用発電機	1
	トランシーバー	2
	台車	1
	はしご兼用脚立	1
	投光器(ハロゲンランプ)	1
	長靴	7
防水シート	2	

在庫調査：平成 30 年 1 月 14 日

垂水地区地域おたすげガイドWWSマップ



□部分は、その行動が完了したら✓をつける

地震の場合

【災害発生直後】

●個人の行動

- 地震の揺れを感じたら、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、身の安全を確保する。（※火を使用している場合は、可能な限り火を止める）
- 屋内の場合は、出入り口を確保する。
- ガスの元栓やブレーカーを落とす。
- 自動車で移動中の場合は、路肩に停めて安全な場所に避難する。
- 火災が発生したら、消火器等で初期消火を行う。
- ラジオなどで情報の確認。
- 家族の安全を確認する。

●防災福祉コミュニティとしての活動

①防コミ運営本部の立ち上げ（垂水小学校）

- 垂水小学校にあつまる（津波警報の場合は高台への避難を優先する）
 - ※鍵が開錠されていない場合は南側の垂水区役所に学校の鍵開錠を依頼する
(※7ページ参照)
- 集まったメンバーにより、被害等の状況の確認を行う。
- 本部に防コミ役員全員は集まらない可能性が高い。集まった人たちで行う。
- 統括リーダーを決めるなど、集まった人達で役割分担を決める。
- 必要に応じて防災資機材倉庫を開ける

②運営資材の準備（防災資機材庫内から持ち出す）

- 地域の地図・防災マップ
- 模造紙と筆記用具等

【災害発生3時間くらい】

①情報収集・伝達

- ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 伝令等により各地区内の被害状況や住民の安否等の状況調査を行う。



②安否確認

- 各住民が近隣世帯の確認を行う。
- 各住民の持ち寄った情報を集約する。

③消火活動

- 出火場所を確認する。
- 消火活動人員の割り振りをする。
- 消火器具等(消火器やバケツリレーなど)を活用し初期消火を行う。

④救出・救護活動

- 救出活動人員の割り振りをする。
- 被災者が負傷している場合、止血等の応急手当をし、できれば医療機関に搬送する。
- 防災資機材を使用し、負傷者を救出する(二次災害に注意)。
*救出にはジャッキやバール、のこぎりなどが有効です。

⑥区や消防署への連絡

- 電話の使用が可能か確認する
- 被害情報、活動情報等を区役所等に知らせる
[垂水区役所(代) 708-5151]
- 火災・救助が必要な場合は **[119番]**
* 災害時、垂水消防の本署 [786-0119] や高丸出張所 [705-0119] にはつながりにくくなる可能性が高いので、そういう場合には伝令で出張所に行く。
電話が使えない場合は垂水消防署高丸出張所へ紙に状況を書いて渡しに行く

防災福祉コミュニティの運営本部を垂水小学校に決定した理由

大地震や津波の被害が予測される場合、垂水防コミの拠点である地域福祉センターは、海沿いの垂水年金会館3階に設けられていることや、防コミで垂水年金会館の入口の鍵を預かっていないことを考えると災害対策本部(防コミ運営本部)をここに置くよりも、2号線北側に位置する垂水小学校に設けることが妥当と判断した。

小学校の鍵開錠については、現時点では防コミで鍵を管理していないが、小学校の南にある垂水区役所に開錠依頼することで対応可能。

※ただし、深夜に地震が発生した場合など垂水区役所に職員が参集していない場合にどうするか今後、検討する必要がある。

安否確認

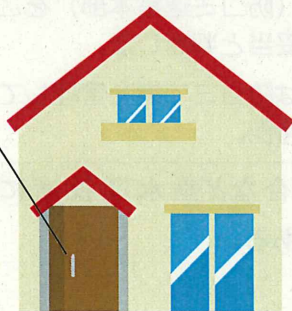
担当団体等

- 各住民が近隣世帯の確認を行う
- 各住民の持ち寄った情報を集約する

手順

- 外観の確認
建物に甚大な被害がないかを確認する。
- 声かけ・呼びかけ確認
門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。
- ドアをノックする
応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックしてみても確認をする
- 庭、勝手口等の確認
状況が把握できないときは、庭、勝手口などの確認を試みる。
- 確認シール貼付（表示方法等は今後再検討する）
確認した状況に応じて、玄関ドアにシールを張り付けする。
シールの色分け
 - 救助支援の必要あり
 - 安否確認できず
 - 確認済み・支援の必要なし

ドアにシールを貼る



情報収集・伝達

手順

□ 情報収集

(1) 広域情報の収集

災害や被害、気象等の情報を収集する。

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

(2) 行政情報の収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

(3) 地域情報の収集

集まったメンバー等から地域の情報を聞き出す。

□ 情報の整理

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

□ 地域全体に情報を伝達する。広報掲示板・主な場所での掲示、その他（ハンドマイク、回覧板）の情報伝達手段を活用する。

救出・救護活動

資機材の調達

- 垂水小学校運動場北西

手順

1 被害の実態把握

- 倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- 建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- 二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2 二次災害の防止

- 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- 柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3 要救助者の救出

- 要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- 要救助者を無理に引き出そうとしない。

4 応急手当

- 出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

消火活動

初期消火を行う

- 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る

手順

1 消火用水の選定

- バケツリレー、消火器等の有効活用を考える。
- 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- 河川使用時はバケツ等に紐を結び、くみ上げの活動が行いやすい方法で水の流れに向けて投入し、くみ上げ後、小分けしバケツリレーを行う。
- 近隣に設置してある、消火器を活用し消火活動を行う。